FLORA KANAGAWA

Mar. 31. 2021 No.90

神奈川県植物誌調査会ニュース第 90 号

〒 250-0031 小田原市入生田 499 神奈川県立生命の星・地球博物館内
神奈川県植物誌調査会
TEL 0465-21-1515・FAX 0465-23-8846
e-mail kana-syoku@flora-kanagawa2.sakura.ne.jp

図1. ハコネラン．左. 2014年6月26日 金時山（MIA-1）．右上. 2020年7月2日 箱根町（HAK-1）．右下. 同 花の拡大．撮影 勝山輝男．

ハコネランを箱根で撮影

（勝山輝男）

ハコネラン *Ephippianthus sawadanus* (F.Maek.) Ohwi ex Masam. & Satomi はブナ帯の湿った樹林内に生えるラン科植物で，秩父・丹沢・箱根・富士山周辺に分布し，紀伊山地に隔離分布する．1935 年に久内清孝が箱根神山で採集した標本に基づき，前川文夫が新属新種 *Hakoneaste sawadana* F.Maek. として発表し，後にコイチヨウラン属に合一された．『神奈川県植物誌 1988』の調査以後，ハコネランは丹沢ではときどき採集されてきたが，箱根では 1960 年代に神山で採集された標本を最後に，その後は標本が得られていない．写真による記録ではあるが，2014 年と 2020 年に箱根でハコネランを撮影したので，記録として留めておきたい．

2014 年のものは，金時山の南足柄側（MIA-1）

の登山道で1本見つけて写真撮影したものである．この個体はその後登山道の整備で消滅し，その後も毎年付近を探したが見つけることはできなかった．その場所は昨年の夏には大規模な崩落が起きてしまった．

その後，しばらくは箱根でハコネランを見る機会はなかった．昨年（2020年）はコロナの影響で遠出ができず，地元の箱根を歩く機会が増えた．そのおかげで久しぶりにハコネランに出会うことができた．場所は植物誌の調査区ではHAK-1の範囲である．

松本雅人氏採集標本による神奈川県植物誌への追加記録

（勝山輝男）

2020年9月4日に植物誌調査会会員の松本雅人さんが亡くなられた．松本さんは『神奈川県植物誌2001』（以下，『神植誌01』）と『神奈川県植物誌2018』（以下,『神植誌18』）の調査にあたり，相模原市，座間市，海老名市，綾瀬市，大和市，横浜市瀬谷区などの調査に貢献され，多数の日本新産や神奈川県新産の帰化植物を発見された．

『神植誌18』で私が担当した部分の標本リストを調べてみると，相模原市博物館には1987年頃に採集された松本さん採集の標本があり，1995年頃までは少しずつ標本の数が増えていく．1995年1月に県博が横浜から小田原に移転，11月には相模原市博物館がオープン，翌1996年1月の植物誌調査会総会で『神植誌01』編纂が呼びかけられた．1996年からは松本さん採集の標本が大量に相模原市博物館に持ち込まれるようになった．

松本さんが県博に標本を持ってこられたのは1997年になってからである．当時問題になっていた牛糞がまかれた畑地周辺に発生した不明帰化植物をたくさん持ってこられた．座間市小池で採集されたナス科ツクバネアサガオ属の植物を *Petunia parviflora* Juss. と同定し，栗原遊水地で採集されたサクラソウ科オカトラノオ属の植物を *Lysimachia ciliata* L. と同定し，それぞれヒメツクバネアサガオ，アメリカクサレダマと和名を新称して，植物分類地理49巻1号（1998年6月）に松本さんとの共著で「神奈川県座間市から相次いで発見された日本新産の帰化植物」として投稿した．その後，いくつかの日本新産帰化植物を松本さんとの共著で生命の星・地球博物館の研究報告や自然誌資料に発表した．

松本さんは2001年以後は横浜市瀬谷区上瀬谷によく通われた．中国内蒙古起源のソバ殻が堆肥として用いられた畑地で，大陸原産の帰化植物が見つかった．この場所の様子は松本さんがFlora Kanagawa No.57（2004年）に書かれている．最近は圏央道の整備に伴う法面緑化植物に興味を持たれていた．

松本さんはいつも風呂敷いっぱいに大量の標本を持ってこられた．松本さんが既存の図鑑で調べがつかなかった標本を持ってくるので，その同定は簡単ではない．どうしても未解決の標本が溜ってしまう.『神植誌18』の執筆者による標本チェックが佳境に入り始めた2017年冬，県博に収められていた松本さん採集の不明帰化植物標本を整理した．私が担当したものでは，アレナレチャヒキ *Bromus pumpellianus* Scribn.，ナガエアズマツメクサ *Tillaea peduncularis* Sm.，エダウチアズマツメクサ *Tillaea macrantha* Hook.f.，ニオイヨモギ *Neopallasia pectinata* (Pall.) Poljak. などがあり，これらを日本新産の帰化植物として『神植誌18』に間に合わせた．

2020年9月初旬に松本さんが病気で自宅療養されていることをお聞きした．松本さん採集の未同定標本がまだ県博に残っていたので，少しでも解明しようと思い，その整理に取り掛かった．すでに『神植誌18』の分布図に打たれている分布点の重複標本が多かったが，マメ科シャジクソウ属の日本新産帰化植物1点，神奈川新産帰化植物1点，再発見が2点，調査区で未記録の種が数点あった．マメ科シャジクソウ属の報告は佐々木あや子さんと別稿にまとめ，その他の種類はこの場で，松本さんのご冥福を祈りつつ報告する．

イトハネガヤ *Nassella tenuissima* (Trin.) Barkworth（A103 イネ科）

標本：相模原市中央区下九沢（SA-3）2001.6.29 KPM-NA0221969; 座間市栗原中央（ZA）2001.6.29 KPM-NA0221949.

相模原市は新しい産地.『神植誌18』の分布図に座間市（栗原5丁目 2009.5.24 松本雅人 SCM-046824）の分布点があるが，同所では2001年にすでに採集されていた．県内では2013年に藤沢市川名，2001年に江の島，2003年に横浜市西区，2014年に戸塚区で採集されている．

ザラツキエノコロ *Setaria verticillata* (L.) P.Beauv.（A103 イネ科）

標本：横浜市瀬谷区上瀬谷（SE）2001.8.2 KPM-NA0221934.

瀬谷区は新しい産地．横浜市中区（1981 年），保土ヶ谷区（1986 年），相模原市（2002 年）で採集されている．

ハマビシ *Tribulus terrestris* L.（A138 ハマビシ科）

標本：横浜市瀬谷区上瀬谷（SE）2004.6.26 KPM-NA0221923．図 1

海辺の砂地に生える 1 年草または越年草で,『神植誌 18』の調査期間に上記標本が採集されていた．長さ 10cm ほどの小型の個体で少数であるが結実．採集地は中国内蒙古起源のソバ殻が堆肥として用いられた畑地．県内ではこれまでに久里浜（1916 年と 1954 年），横浜税関（1942 年），横浜市中区山下埠頭（1979 年）で採集され，最近では 1996 年に松本さんが座間市小池で採集されている．いずれも一時的な発生とみられ，継続して生育は確認されず,『神奈川県レッドデータブック 2006』では絶滅と判定された．全国的にも減少が著しく,『環境省レッドデータブック 2015』では絶滅危惧ⅠB 類とされている．

図 1．ハマビシ（KPM-NA0221923）．

ヒナツメクサ *Trifolium resupinatum* L.（A140 マメ科）

標本：横浜市瀬谷区上瀬谷（SE）2005.4.30 KPM-NA0221933.

瀬谷区は新しい産地．横浜市港北区, 相模原市, 大和市，藤沢市，伊勢原市で採集されている．

ツキミソウ *Oenothera tetraptera* Cav.（A216 アカバナ科）

標本：座間市入谷（ZA）2004.7.3 KPM-NA0221950.

座間市は新しい産地．県内では厚木市（2015 年），平塚市（1999 年），大和市（1984 年），横浜市保土ヶ谷区（1998 年）などで散発的に記録されている．

ヒメグンバイナズナ *Lepidium apetalum* Willd.（A270 アブラナ科）

標本：横浜市瀬谷区上瀬谷（SE）2004.6.4 KPM-NA0221927．図 2.

朝鮮北部から中国東北部原産．出口長男（1979）『神奈川帰化植物』に横浜港湾の記録があるが，標本は確認されていなかった．葉は全縁．短角果は卵形（やや基部よりの幅が最大）で小花柄の上側に乳頭状の細毛が生える．種子には翼状の縁取りはない．これまでに日本で確認されたマメグンバイナズナ属の検索表は改訂新版日本の野生植物 4 巻のものが網羅している．

図 2. ヒメグンバイナズナの花序（KPM-NA0221927）

イトツメクサ *Sagina apetala* Ard.（A295 ナデシコ科）

標本：横浜市瀬谷区上瀬谷（SE）2005.4.28 KPM-NA02219232; 厚木市上荻野（AT-1）2001.6.18 KPM-NA0221974.

横浜市瀬谷区や厚木市は新しい産地．横浜市，相模原市，横須賀市などで採集されている．

イモネノホシアサガオ *Ipomoea trichocarpa* Elliot（A359 ヒルガオ科）

標本：相模原市麻溝台 2 丁目（SA-4）2005.9.24 KPM-NA0221975．図 3.

北アメリカ原産の帰化植物で神奈川県新産．幅 1cm 弱の肥大した根がある．葉は 3 深裂し，ホシアサガオに比べて多毛．花序はホシアサガオと同様に花序柄が葉よりも長く，3 ～ 10 花をつける．小花柄のいぼ状の突起はホシアサガオよりも目立つ．萼片は先が急に短く尖り，基部が膨れた白粗毛が生える．花冠は桃色で中心は濃色，ホシアサガオよりもやや大きい．該当標本は結実していない．渡辺・真木・星川（1976, 植物採集ニュース no. 84: 13）が香川県への帰化を報告した．平凡社日本の帰化植物に写真と形態の記載が載っている．

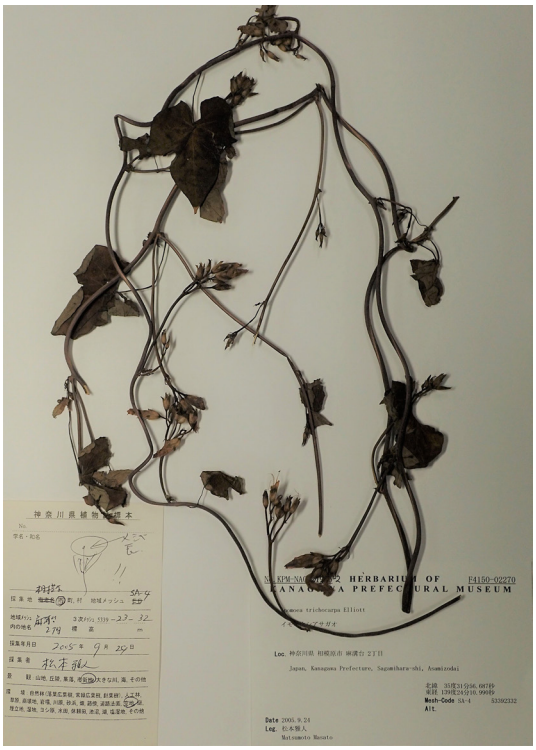

図 3. イモネノホシアサガオ（KPM-NA0221975）.

ノハラジャク *Anthriscus caucalis* M.Bieb.（A416 セリ科）

標本：横浜市瀬谷区上瀬谷（SE）2005.5.3 KPM-NA0221924．図 4, KPM-NA0221925.

ヨーロッパ原産の帰化植物．高さ 20 ～ 30 cm 程度で，ヤブジラミのように細かく分裂した葉をもち，果実には鉤状に先が曲がった刺が密生している．果実や葉の形状からニンジン属やヤブジラミ属に近縁と思われたが，分果の先が嘴状に伸びている点（図 5）が異なった．ヨーロッパの図鑑であたったところシャク属の *Anthriscus*

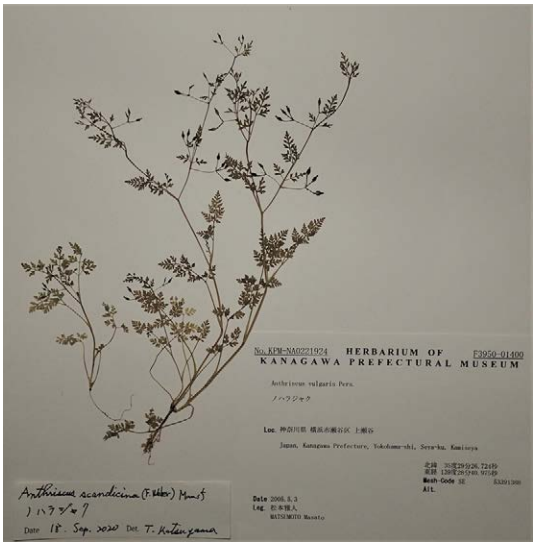

図 4. ノハラジャク（KPM-NA0221924）.

図 5. ノハラジャク果実.

caucalis がよく一致した．和名がないか調べたところノハラジャクと判明し，県内では 1982 年に伊勢原市，2016 年に秦野市で採集されていた（標本は平塚市博に収められている）．学名は『神植誌 01』では *A. vulgaris* Pers. (1805) が採用されたが，*A. vulgaris* Bernh. (1800) の先行名があり，『神植誌 18』では *A. scandicina* (F.Weber ex F.H.Wigg.) Mansf (1939) に改められた．しかし，*Anthriscus* のもとでは *A. caucalis* M.Bieb. (1808) が先行する．

日本新産の帰化植物　オオバナツメクサ

（佐々木あや子・勝山輝男）

松本雅人氏が横浜市瀬谷区で採集された標本の中からマメ科シャジクソウ属の標本が出てきた．調べたところ，すでに帰化が報告されている種とは異なるようなので，海外の文献にあたってみたところ *Trifolium michelianum* Savi であった．和名はシロツメクサに似るが花序が大きいことからオオバナツメクサとした．シロツメクサとは節部から発根しないことで，タチオランダゲンゲとは花序が大きく，萼裂片が萼筒の 2 倍強の長さがあることで区別できる．原産地は地中海沿岸，荒廃地や湿地に生育するという．松本氏の標本に基づき以下にその形態を記す．

Trifolium micheliamum Savi in Flora Pisana 2: 159. 1798.

1 年草，全草無毛，茎は斜上し立ち上がる．株はよく分枝し，高さ 30 ～ 40 cm，茎には 10 本ほどの溝がある．下部の葉の葉柄は 9 cm，上部の葉の葉柄は 1.5 ～ 2 cm，小葉は倒卵形で 1 ～ 2.2 × 0.8 ～ 1.5 cm，下部の葉の先端は円いかわずかに凹み，上部の葉は円頭または鈍頭，縁には先が尖った細かい鋸歯がある．葉脈は 1 ～ 2 回分枝し，葉縁に達する．托葉は長さ 1.5 ～ 2 cm，草質で基部は幅広い卵形，基部の 1/3 は葉柄に沿着し，上部は急に披針形となり先は尾状に伸び，5 ～ 6 本の脈が目立つ．花柄は基部の葉より長く，先端に 1 花序を付ける．花序は径 2.5 ～ 3.5 cm，球形，小花柄は長さ 6 ～ 9 mm，多くの小花をゆるくつけ，苞は披針形で長さ 2 mm，先は糸状となる．萼には 10 脈があり，長さ 5 ～ 6 mm，5 本の萼歯はほぼ同長，萼歯と萼歯の間は円形で萼筒の 2 倍強の長さがあり，披針形で先は鋭く尖り，開出する．花冠は 1.3 ～ 1.5 cm，ピンク色，旗弁は舟弁より長い．小花は花後下を向く（図 1）．

標本：横浜市瀬谷区上瀬谷 2005.5.4 松本雅人

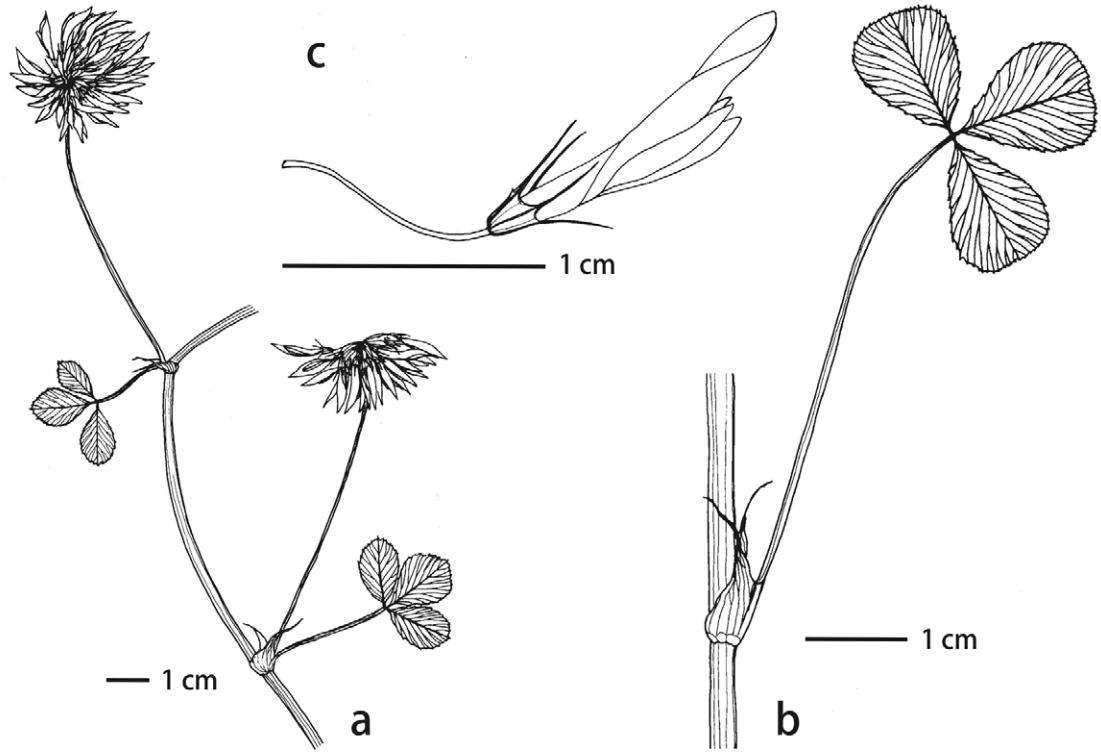

図1. オオバナツメクサ．a. 全体．b. 下部の葉．c. 小花と小花柄．佐々木あや子作画．

KPM-NA0221920.

引用文献

Zohary, M. & D. Heller, 1984. The Genus *Trifolium*. 606pp. The Israel Academy of Sciences and Humanities, Jerusalem.

Coombe, D. E., 1968. *Trifolium*. in Tutin et al ed, Flora Europaea, pp.157-172. Cambridge Univ. Press, London.

『神奈川県植物誌 2018』関連展示の開催報告

（事務局）

今号も『神奈川県植物誌 2018』と当会の活動を紹介する県博巡回展／関連展示についての開催報告を掲載する．今号では，相模原市立博物館での企画展を同館の秋山幸也さんからお寄せいただいた．

・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・

開館 25 周年記念企画展「神奈川の植物，相模原の植物　植物誌から考える生物多様性」を開催しました

（相模原市立博物館　秋山幸也）

会期　　2020 年 9 月 19 日（土）～ 11 月 15 日（日）
　　（実開催日数 49 日）
会場　　相模原市立博物館特別展示室
観覧者数　　6,360 人

はじめに

巡回展示としては後発となり，他館の展示を参考に企画を立てていこうと余裕しゃくしゃくのつもりでいましたが・・コロナ禍で開催すら危ぶまれる事態となりました．幸い，コロナ休館や企画展の休止から初めて再開する企画展としてオープンすることができました．

当初から，市内の古刹である当麻山無量光寺に伝わる古文書（相模原市指定文化財）の企画展と同時開催の企画であったため，会場の広さは通常の企画展の半分であることから，できるだけシンプルに，わかりやすい展示を心がけました．

全体イメージは，流れ散る木の葉

植物誌は，私たちにはバイブル的存在ですが，一般の方にとっては敷居が高い，というより，まったく馴染みも関心も無いであろう書物です．そのため，できるだけ植物誌とは何か？ということを端的に示し，ビジュアル的に人目を引くよう，登場する植物をフューチャーするようにしました．そして，担当者として一番効果を発揮したと自負しているのは，会場壁面に色とりどりの木の葉のイラストを散りばめたことです．

これは展示準備が進むオープン 4 日前の朝，寝覚めにふと思いついたアイデアでした．いつものことなのですが，企画展の準備が進んでくると，早朝目が覚めると準備にまつわるいろいろなことを思い出して，二度寝ができなくなります．そんな時，ふと突拍子もないアイデアが浮かぶことがあり，今までも取り入れて成功したものがいくつもあります．他の職員には「神のお告げ」とうそぶいていましたが，あながちウソではないかもしれません．結果的にこの演出は，導線に沿って軽やかに流れるイメージが作られ，大成功でした．

図 1. 冒頭のタイトルと木の葉の演出．

相模原の調査成果を強調する

当然のことではありますが，当館で開催するからには，相模原植物調査会の調査成果を強調しました．1995 年に開館した当館は，『神奈川県植物誌 2001』は滑り込みセーフといった具合で参画したため，登録標本数も 3 千点台とわずかでした．その後，本格的に活動が活発化し，さらに市町合併も重なったことで標本数もうなぎ上りとなりました．『神奈川県植物誌 2018』では新たな登録標本数が 4 万点台となり，県北域の植物相の把握という点で大きな成果を残したと自負しています．しかし，そんな量的な成果は一般には極めて分かりにくく，独りよがりな展示になりかねません．そこで，相模原市域に特有，あるいは県内に残さ

れたわずかな分布地, といった植物を厳選して‘大きく’紹介しました．標本に加えて，A2 サイズの写真パネルを掲示したため，植物そのものへ観覧者の意識が向いたようです．来館者アンケートにも「相模原にこんなに貴重な植物があるとは知らなかった」といった声が多数寄せられました．

特別な道具は使わない

もう一つ協調したのは，相模原植物調査会の日常的な調査の様子です．見た目は普通（そうでもない方もいますが）の市民である調査会の面々が，特別な道具などもなく，足で稼ぐ調査をし，さらに高度に専門的な知識と技術によって植物誌という成果を支えていることを伝えたかったのです．調査用具の紹介部分でも，あえてホームセンターで購入できるような普通の剪定ばさみや，板ダンボールと荷造りヒモの野冊，そして市販品の野帳などを展示しました．特別なものと言ったら，ヤマビル忌避剤「ヒル下がりのジョニー（製品名）」と「今はスマホの普及で使わなくなった」と解説付きで展示したポケット GPS 機でしょうか．

図 2. 調査用具の展示.

標本レスキューのインパクト

最後のコーナーでは，2020 年 7 月豪雨による熊本水害で被災した植物標本のレスキュー作業の様子です．このコーナーだけ，博物館実習生（大学のカリキュラムで学芸員の資格を取るための実習）に製作してもらいました．実際にレスキュー作業に加わった実習生にとっても，水損した博物館資料と，洗浄乾燥作業に従事する調査会のみなさんの熱意はとてもインパクトがあったようです．そんな実習生の気持ちがそのまま展示にも表れていました．

折しもこの作業と展示準備のことを相模原植物調査会 NEWSLETTER に掲載したところ，厚木植物会の長岡恂さんから，これらの被災標本がバックデータとなっている『南肥植物誌』（前原勘次郎著）をお持ちで，貸し出しても良いと連絡をいただきました．この貴重な植物誌の実物を展示できたことは，企画展のしめくくりに重みを与えてくれました．この場を借りて長岡さんに心より感謝申し上げます．

図 3. 実習生製作の標本レスキューの展示コーナー.

特色を出せた講演会

通常は記念講演会と銘打って実施する関連事業もできなくなり，オンライン講演会に切り替えるという苦渋の決断をしました．テーマは「科学の眼で植物誌を読み解く」．当初からお二人の講師による少し短めの講演の二本立てを計画していたのが功を奏しました．オンラインでは受講者の集中力がなかなか続かないため，長い時間の講演は向かないのです．

講師は，横浜国立大学の倉田薫子さんと，麻布大学の新田梢さん．お二人とも当会会員で，しかもほかの巡回展でまだ登場されていなかったことから，これも当館の特色を出す結果になりました．倉田さんからは「APG 分類体系と植物の進化」について，新田さんからは「生物多様性と地域植物誌」ということで，今回の展示のテーマを真正面から取り上げていただきました．結果として，なかなか相模原へ足を運ぶ機会の無い方にも聴講のチャンスができたようで，1 日 1 回限りの講演会に比べて，多くの方に視聴していただけました．今後はこうした講演会のあり方も選択肢の一つとなるかもしれません．

植物誌は続く

植物誌を貫く「標本主義」と，生物多様性の基

礎資料という植物誌の位置づけ，そして，生物標本は過去にさかのぼって採集できない（だから今，標本を採集して未来のために残す）ということをメッセージとして込めたつもりです．それがうまく伝わったかどうかは想像するしかないのですが，少なくとも博物館では，植物誌の調査が今も続けられている，現在進行形の活動であることは理解されたと思います．

コロナ禍という特殊状況であり，来場者数も多いとは言えませんでしたが，そのような中で伝えたいことを形にできたという充実感は残っています．

神奈川県立生命の星・地球博物館の収蔵資料公開スタート

（石田祐子）

近年はWebサイトによる標本の属性データ（ラベル情報など）の公開が進んでいる．『サイエンスミュージアムネット』*（以下，S-Net）の他，国立科学博物の『標本・資料統合データベース』*や千葉県立博物館の『千葉県立博物館 資料データベース』*のような自館の収蔵資料公開ページを持つ館も増えてきた．神奈川県立生命の星・地球博物館でも，2020年10月に『神奈川県立生命の星・地球博物館 収蔵資料データベース』*というWebサイトでの収蔵資料公開がスタートした．

＊各サイトのURLは本文末尾に示す．

生命の星・地球博物館収蔵資料データベース公開

『神奈川県立生命の星･地球博物館 収蔵資料データベース』トップページでは動植物・地学すべての分野の資料（標本や画像・音声）の横断検索ができ，横断検索の下に分野ごとの詳細検索ページへの入り口がある．「維管束植物」の詳細検索ページでは，標本の属性情報（種名，採集日，採集地など）が検索できる．ただし，採集地については，希少種保護の観点から図1のような公開するレベルを設定している（公開レベルは分野によって異なる）．これは，環境省や都道府県のレッドデータ掲載種（以下，RD）ではないが，その選定のボーダーラインにあるような種や新産で希少種であるにも関わらずRDから漏れてしまう種の産地情報が公開されるのを防ぐためだ．

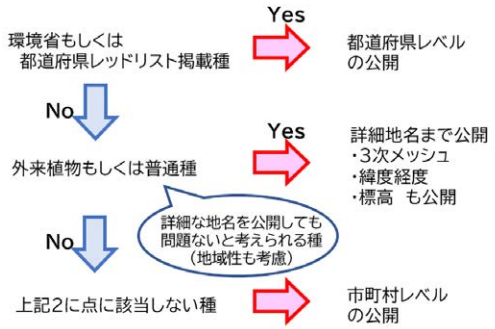

図1. 生命の星・地球博物館収蔵資料データベースの産地情報公開方針.

また，今回スタートしたWebサイトでは，標本画像の閲覧も可能だ（図2）．「維管束植物」では，現在はタイプ標本画像を優先的に公開しているが，将来的にはタイプ標本以外の画像の公開も進めていきたいと考えている．

Webサイトで標本を調べる時の注意点

標本検索をして，標本庫で閲覧したい標本が出てきた時は，収蔵している標本庫の標本番号（資料番号）を控えておくことが重要だ．標本番号は標本管理のために1つ1つの標本に与えられた番号で，この番号が変更されることはないが，種名やその他の属性情報の場合は，再同定や属性情報の修正などで変更される可能性があるからだ．また，サイトで標本検索をしてデータがヒットしないからといって，検索した収蔵庫に目当ての標本が“無い”とは限らない．また，データがヒットした場合でも希少種保護や個人情報保護の観点から全ての情報を公開していないケースがある．この様な点に注意しながらWebサイトを利用して頂きたい．

サイトURL（2020年12月閲覧）

神奈川県立生命の星・地球博物館,『神奈川県立生命の星・地球博物館 収蔵資料データベース』http://nh.kanagawa-museum.jp/kpmnh-collections/

国立科学博物,『サイエンスミュージアムネット』http://science-net.kahaku.go.jp/

国立科学博物,『標本・資料統合データベース』http://db.kahaku.go.jp/webmuseum/

千葉県立博物館,『千葉県立博物館 資料データベース』http://search.chiba-muse.or.jp/DB/.

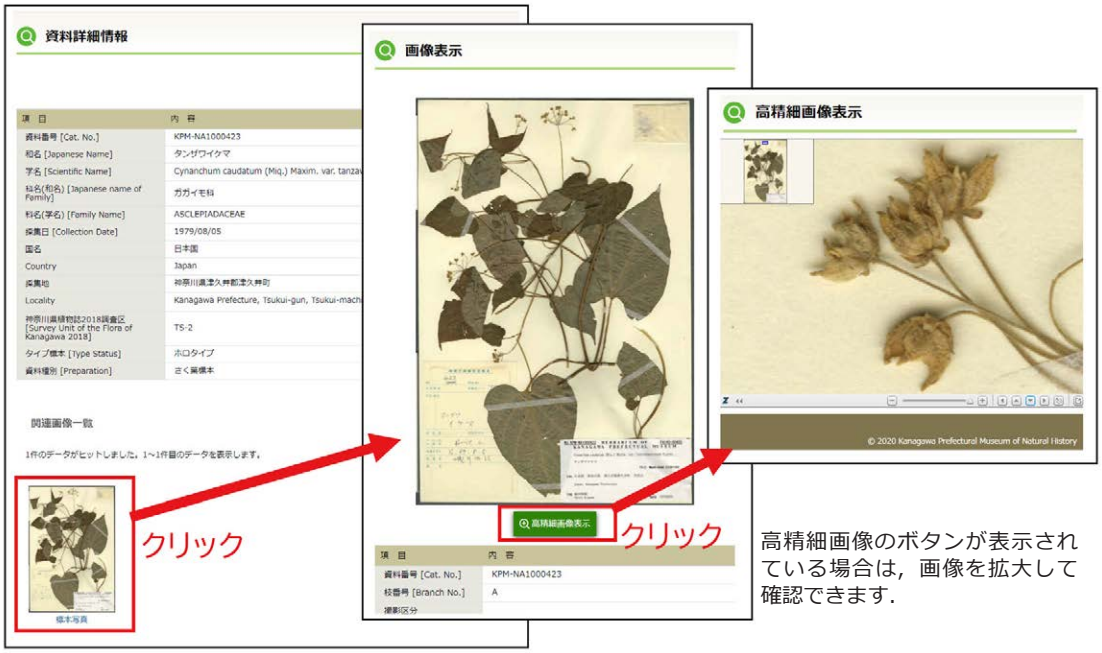

図 2.『神奈川県立生命の星・地球博物館 収蔵資料データベース』資料詳細画面および画像表示画面.

大場達之氏，ご逝去

（勝山輝男）

神奈川県植物誌調査会顧問の大場達之氏が 2020 年 10 月 29 日未明にご逝去されました．享年 84 歳でした．

神奈川県植物誌調査会では『神奈川県植物誌 1988』,『神奈川県植物誌 2001』,『神奈川県植物誌 2018』の 3 冊の植物誌を世に送り出しましたが，これらの植物誌は大場先生なしてはできなかったものです．1979 年の植物誌調査会発足の際に提案された植物誌の事業計画は Flora Kanagawa 1 号（1979）に掲載されています．当時の県単位の植物誌は植物目録が中心でしたが，提示された計画は神奈川県産の全種について標本に基づいた分布図を掲載するものでした．県内を 108 個の調査区に分け，各調査区ごとに植物相の調査を行い，それを集約して分布図を作成するもので，そのために多くの植物同好者に調査への参加が呼びかけられました．

調査が進み，標本が集まり始めると標本の整理やデータ処理が問題になります．大場先生は当時はまだ高価だったパソコンを購入されて，データ処理や分布図を作成する試みを始められました．標本データは 1 種が 1 レコードで 256 バイトを割り当て，科コードなどに 7 文字，和名に 33 文字，学名に 108 文字，108 調査区の標本の有無に 1 文字ずつをあて，計 256 文字とされました．県内産の植物約 2800 種の分布データが当時主流だった 1M バイトのフロッピーディスクに収められました．このデータベースをもとに手書きやガリ版刷りのチェックリストがパソコンを利用したチェックリストに変わりました．108 調査区の位置に自動的に点を打つプログラムも作られ，透明なシートに神奈川県の白地図をコピーしたものと重ね合

図 1. 県立生命の星・地球博物館へのご来訪時の一コマ．大場達之さん（左），高橋秀男さん（中央），とともに．（1997 年 3 月 30 日）

目 次

勝山輝男：ハコネランを箱根で撮影.....1079
勝山輝男：松本雅人氏採集標本による神奈川県植物誌への追加記録.....1080
佐々木あや子・勝山輝男：日本新産の帰化植物　オオバナツメクサ.....1083
事務局：『神奈川県植物誌 2018』関連展示の開催報告.....1084
　相模原市立博物館　秋山幸也：開館 25 周年記念企画展「神奈川の植物，相模原の植物
　植物誌から考える生物多様性」を開催しました.....1084
石田祐子：神奈川県立生命の星・地球博物館の収蔵資料公開スタート.....1086
勝山輝男：大場達之氏，ご逝去.....1087
編集後記.....1088

図 2. 房総半島での野外調査にて．（1997 年 6 月 2 日）

わせて分布図が作られました．この分布図作成方法については Flora Kanagawa 20 号（1982）に詳しく書かれています．その後，パソコンの能力の向上からパソコンで直接分布図が打ち出せるようになり，『神奈川県植物誌 1988』の分布図が作られました．

『神奈川県植物誌 1988』で次に問題になったのが出版費用です．今ではパソコンの DTP ソフトを使い，版下で入稿するのが当たり前ですが，当時は活字を拾って版下を作っていた時代です．大場先生はパソコンと接続できる活字プリンターをビジネスショーで見つけてこられ，それを使って版下を自前で作成することを提案されました．活字プリンターでの版下作成の様子は『神奈川県植物誌 1988』のあとがきに書かれています．版下作成のときには，馬車道の神奈川県立博物館で夜遅くまで作業して，先生といっしょに東横線の最終電車で帰ったことが，ついこの間の事のように思い出されます．大場先生の手腕により，きわめて安価に『神奈川県植物誌 1988』を出版することができました．

『神奈川県植物誌 1988』出版後，大場先生は 1989 年開館の千葉県立中央博物館に副館長として就任され，その後は千葉県植物誌の編纂に取り掛かりました．神奈川県植物誌調査会には Flora Kanagawa 26 号で，標本 1 点 1 点をデータベース化することと国土基本メッシュの 3 次メッシュの精度で分布図を作成することを提案されました．この提案は私たちが引継ぎ，『神奈川県植物誌 2001』や『神奈川県植物誌 2018』を完成させることができました．千葉県植物誌は 2003 年に『千葉県の自然誌 別編 4』として出版されました．

神奈川県植物誌と千葉県植物誌は大場先生の研究生活の後半でもっとも力を注がれた活動だったと思います．「住民による，住民のための植物誌を目指し」を実践して，神奈川県植物誌や千葉県植物誌編纂を通して，多くのアマチュア植物同好者を育てられたと思います．大場達之先生の業績を讃え，心から感謝申し上げ，ご冥福をお祈りいたします．

編集後記

2020 年度に引き続き，2021 年度についても，新型コロナウイルス感染拡大防止を鑑み，役員会・総会は書面開催とさせていただくことについて，役員で調整中です．詳細につきましては，同封の資料をご確認下さい．（大西 亘）

神奈川県植物誌調査会
〒 250-0031 小田原市入生田 499
神奈川県立生命の星・地球博物館内
TEL 0465-21-1515・FAX 0465-23-8846
e-mail kana-syoku@flora-kanagawa2.sakura.ne.jp
郵便振替　00230-5-10195
加入者名　神奈川県植物誌調査会
年会費　2,000 円